

## 校名：富山大学人間発達科学部附属幼稚園

所在地：〒930-8556 富山市五艘 1300

電話番号：076-445-2812

記載日： 28年 5月 20日 記載者：廣田仁美

記載者役職：副園長

### 貴校の校風、おおまかな特色について：

明治20年、富山県尋常師範学校に幼児保育場として付設されてから127年の歴史をもつ本園は、富山大学人間発達科学部附属であり、富山県唯一の国立幼稚園で、次の3つの使命を有している。

- 幼児教育に関する研究を推進し、さらに研究成果を発信し、県内の幼児教育をリードする。
- 大学が学問として研究していることについて、実践を通して検証する。
- 人間発達科学部生の教育実習を受け入れ、未来の幼稚園教員を育てる。

本園では、『夢中になって遊ぶ子どもの育成』に重点を置き、「子どもらしく、のびやかに、いきいきとした子」「自分で考え、行動し、責任をもとうとする子」「まわりのすべてに心をかよわせて生活する子」を教育目標として幼児教育に取り組んできた。

また、本園の実情として、以下の点が挙げられる。

- 明るく活発な幼児が多い。
- 核家族の中で育てている幼児が、大部分を占めている。
- 保護者の幼児教育への関心が高く、温かい親子関係の中で育てられている子が多い。

### 貴校の卒業生の活躍状況について：

本園独自の追跡調査は実施していない。附属小学校、そして附属中学校へ進学する者が多いので、中学校の把握している情報を共有させてもらっている。

### 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

本園独自の追跡調査はしていない。富山県教育関係職員録等より現在の勤務校や担当学年等について情報を得るようにしている。しかし具体的な活躍状況については、十分に把握できていない。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先進的な取り組みなどについて

## 大学との連携による保育の質の向上

＜幼児期の育ちを支えるために＞

富山大学人間発達科学部附属幼稚園



## 研究の推進

～自力を高める～

- ・ 保育を理論的に裏付ける
- ・ 保育カンファレンスで幼児理解を深める
- ・ 研究のまとめを分かりやすいものにする

- 子どもにとって、よりよい保育へ
- 研究の成果を県内外へ

免許更新者研修

2に1

## 県内外への発信

～保育の質の向上へ～

保育フォーラム  
にて

県教育委員会  
主催の研修会で

新規採用教員  
研修会等で

研究紀要に  
まとめて送付

## 教育実習

～学生を育てる～

- ・ 実習の意義を複数年で捉え直す
- ・ 実習の意義を大学と共通理解する

- 学生にとって、より実のある研究保育へ
- 幼児理解を大切にした実習へ
- 学生の主体的な実践を促す実習へ



本園の使命は次の3つであると考えている。

## ① 研究の推進～自力を高める

＜最近3年間の研究の歩みから＞

26年度より、『子どもの体験を支える』という視点から研究を進めることとし、子どもがしている体験の意味を探ってきた。1年次目は副題を「子どもがしている体験の意味を探る」とし、その子どもの体験がどのような意味をもち、次へとつながっていくのかを分析してきたことで、子どもがしている体験が多様であり、その一つ一つが育ちを支えていることを実感した。

27年度は、副題を「体験をつなぐ環境の構成を探る」とし、体験と体験をつなぎ、より確かな子どもの育ちをめざし、充実した体験を可能にする『環境の構成』に視点を置いて、幼児の体験をどのように支えていけばよいのかを考えた。子どもが主体となって体験を積み重ねていくことで、内面が変容し、そのことが子どもの学びとなり、成長につながっていくことが考察できた。改めて保育者として保育の質の向上を意識していくことの大切さを痛感するとともに、さらに細やかな保育者の援助のあり方を探っていく必要性を感じた。

そこで28年度は、副題を「体験を生かす援助のあり方を探る」とし、保育者の役割に視点を置き、子どもが体験と体験をつなぎ、さらにその体験を生かしていけるように支えながら、子どもの豊かな育ちをめざす。保育者がどんな意図をもって、体験の何をつなごうとしたのか、何がつながったのかを明確にすることで援助のあり方が浮き彫りになり、それをもとに保育者がどう援助したのかということ保育者の5つの役割に基づいて、明解にしていく。今までの体験を生かすことだけにとどまらず、さらに先にどう生かしていけるかを公開保育や園内研、保育のカンファレンスを継続しながら探っていく。

## ② 教育実習

教育実習は、将来、教職を志望する学生が幼稚園における実際の教育活動を体験することによって、教員としての基礎を確立するものである。そこで、以下の内容について充実を図り、幼児教育に必要な『子どもの内面を理解する力』を育むことができるようにと考えている。

### 【教育実習の内容】

- |          |  |
|----------|--|
| ○ 講話     | 「教育実習要項」に基づき、園内で講話   |
| ○ 観察     | 指導教員の保育の観察と幼児にかかわりながらの観察   |
| ○ 教育実習   | 指導教員の指導を受けて指導案を作成し、保育を担当する。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 歌遊び、手遊び、絵本・紙芝居の読み聞かせ、話し合い活動、生活指導、食事指導（おやつ、弁当の時間）等</li><li>・ 「好きな遊びの時間」における援助</li><li>・ 「みんなと一緒の時間」における援助</li></ul> |
| ○ 公開研究保育 | 各学年が保育を公開し、全員で事後研究協議会を行う。  |
| ○ 教育実習録  | 毎日記録し、指導教員より助言を受ける。  |
| ○ 評価     | 幼児理解、幼児への接し方、教材・環境等の研究、実習記録、勤務態度の5つの観点より総合評価する。  |

大学と連携し、教育実習に入る前の授業でも、テーマをもって子どもを観察したり、指導計画に基づいて実践したりする機会を積極的に取り入れている。

### ③ 県内外への発信 以下のような機会を積極的に活用している

- 保育フォーラム 毎年6月に公開保育、協議会、研究実践発表を行っている。4名の大学の先生方、5名の公立・私立幼稚園、保育所、小学校の先生方に研究協力者として助言いただいている。その年の成果や課題を研究紀要にまとめ、県内外へ発信している。
- 免許更新講習 保育フォーラムと並行し、免許講習会場となっている。保育を通して、異校種の方々とも子どもの内面理解と教育について、各年のテーマに沿って協議を行っている。
- 県新採研 県内の幼稚園・こども園の新規採用者の研修を行っている。
- ホームページや園便り等の活用  
保育の実際をできるだけ具体的に、発信し、附属幼稚園について知ってもらう機会を大切にしている。
- 職員交流による幼小連携 今年度から幼・小の職員が校種を入れ替え、授業をするという幼小連携研修を行う。今まで行ってきた子ども同士の交流活動は年間を通じて3～4回行ってきた。職員が入れ替わり、保育や授業を行い、それぞれの職員が集まって研修会をもつことで、それぞれが幼小連携の意味を考え、カリキュラムの編成に生かしていくことができると考えている。また、実施する際には、県にも情報を発信し、地域の幼小連携を深めるきっかけとしていきたい。

### 地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

毎年、保育フォーラムには県内外より約200名の参加者が集まる。また学生も学びの場としてボランティアとしてフォーラムを手伝ったり、積極的に研修しようとして申し込んできたりする。協議会では、子どもの内面の読み取り方や遊びへの援助について、テーマに沿った話し合いがなされることより、共に学び合う場となっていることを実感している。子ども園が増えてきている現在、参加者の中には、保育園や子ども園の保育教諭も多く含まれていることから、幼稚園教育という立場というより幼児教育について考える場となっているのではないかととらえている。

また他大学からの学生の環境参観もあり、長い歴史の中で、保育について考え続けている幼稚園というふうに捉えられているのではないかと考える。

### 附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

3つの使命については先に記述した通りであるが、特に、大学出身の学生が、富山県の幼児教育をリードしていくことができるように育成する一助を担うことは本園の大きな任務であると考え。また、本園に勤務した教員が公立学校に戻った時、研究面でリードしていくことができるように真摯に研修を積み重ねること、卒園した子どもが、存分に力を発揮し、社会の中で活躍していくことができるように質の高い保育をしていくことが、本園の存在意義につながっていくと考える。